

令和 8 年度第 1 回一関市地域クラブ活動推進協議会 会議録

- 1 会 議 名 令和 8 年度第 1 回一関市地域クラブ活動推進協議会
- 2 開催日時 令和 8 年 5 月 25 日（月）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
- 3 開催場所 一関市役所本庁会議室棟第 3 会議室
- 4 出席者
 - (1) 委 員 小野寺愛人副委員長、千葉雅子委員、藤森泰子委員、
佐々木伸也委員、佐藤拓史委員長、須藤淳委員、菅原秀介委員、
伊藤ゆき委員、佐藤義行委員、白石理恵委員
※欠席者 小野寺新吾委員、清田博美委員
 - (2) 事務局 松田京士まちづくり推進部長
小野寺和宏いきがづくり課長
横山圭いきがづくり課いきがづくり係長
小笠原美音いきがづくり課主事
平石剛まちづくり推進部次長兼スポーツ振興課長
小野寺孝良スポーツ振興課長補佐兼スポーツ施設係長
濱井大輔スポーツ振興課スポーツ交流係長
阿部和恵スポーツ振興課主査
千葉せつ子教育次長
千葉真学校教育課主幹
佐藤友紀学校教育課指導主事
- 5 議 題
 - (1) 令和 8 年度の部活動の地域展開に向けた取組について
 - (2) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 1 人（うち報道機関 1 社）
- 8 委嘱状の交付
今野薫副市長から、委員 10 名に委嘱状を交付した。
- 9 今野副市長挨拶
副市長の今野でございます。

市長は、本日県政150周年の記念式典ということで、盛岡に出張をしておりましたので、代わって私から挨拶をさせていただきます。

本日は、御多用のところ、令和8年度第1回一関市地域クラブ活動推進協議会に御出席いただきまして大変ありがとうございます。

ただいま、皆様に委嘱状を交付させていただきました。委員をお引受けいただき大変ありがとうございます。

本協議会は、少子化が進行する中であっても、中学生が地域において継続的にスポーツ、文化芸術活動に親しむ機会の確保・充実を図るため、部活動の地域クラブ活動への展開を推進することを目的として令和7年度に設置したものでございます。

昨年12月には国において、令和8年度から令和13年度までの6年間を実行期間とする「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」が公表され、全国的に取り組む部活動の地域展開の方針が示されたところであります。

これまで、当市における中学生の部活動の地域展開につきましては、学校部活動を所管する教育委員会、それから社会教育事業を担当するまちづくり推進部が連携しながら取り組んでまいりました。今後におきましても引き続き、関係者の皆様の御意見をいただきながら、子ども達が地域で継続的にスポーツ・文化芸術に親しむことができる環境整備に向けた方策を検討してまいりたいと考えております。

本日は、令和8年度における市の取組につきまして、御説明申し上げます。

委員の皆様におかれましては、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

10 会長、副会長の選任

互選の結果、会長に佐藤拓史委員、副会長に小野寺愛人委員がそれぞれ選出された。

11 協議事項

(1) 令和8年度の部活動の地域展開に向けた取組について

資料に基づき、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 アンケートの具体的な内容はどのようなものか。また、活動内容の違いはどのように説明するのか。

事務局 小学５・６年生の内容は、

- ・ 中学生になった際、学校部活動への加入予定の有無とその理由
- ・ 加入予定の場合の希望種目
- ・ 学校部活動以外でやってみたい種目
- ・ 地域クラブ活動でどのような人に指導してほしいか

中学１・２年生の内容は、

- ・ 現在加入している学校部活動の種目
- ・ 加入している理由、加入していない理由
- ・ 学校部活動以外でやってみたい種目
- ・ 学校部活動以外で活動している場合は、その目的
- ・ 地域クラブ活動ができた場合に参加したいかどうか
- ・ 地域クラブ活動への参加頻度

小学５・６年生の保護者の内容は、

- ・ 地域クラブ活動ができた場合に子どもを参加させたいか
- ・ 参加させたくない方には、その理由
- ・ 参加させたい方には、期待することや心配なこと、どのような人に指導してほしいか、活動の頻度や活動時間
- ・ 地域クラブ活動の参加費について

中学１・２年生の保護者の内容は、

- ・ 子どもの活動は、学校部活動なのかそれ以外なのか
- ・ 地域クラブ活動ができた場合に子どもを参加させたいか
- ・ 参加させたくない方には、その理由
- ・ 参加させたい方には、期待することや心配なこと、どのような人に指導してほしいか、活動の頻度や活動時間
- ・ 地域クラブ活動の参加費や活動範囲について

中学校教員の内容は、

- ・ 現在の指導状況や内容について
- ・ 指導するにあたって感じていること

- ・ 部活動の地域展開に感じていること、期待することや課題について
- ・ 兼職・兼業の希望

などがアンケートの内容となっている。

なお、児童生徒のアンケート調査は、市内小学５・６年生と中学１・２年生全員に行う。

事務局 児童生徒保護者向けに、地域クラブ活動という言葉がわかりづらいところもあるので、それぞれにアンケートのお願いの文章と一緒に送付することとしている。ちなみに子ども達には、調査の目的ということで、「文部科学省では、学校部活動のほかにスポーツ施設などを活動場所として、地域の人が教える地域クラブ活動を増やす取組を進めています。皆さんの声をもとに一関市では、皆さんが、楽しみながらスポーツ文化芸術の活動を続けていくための方法を考えていきますのでご協力をお願いします。」というようなお願いの文書にしており、保護者向けには、「文部科学省では、急激な少子化が進む中での将来にわたる生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会の確保・充実を図るため中学校における学校部活動を地域が主体となって運営する地域クラブ活動に展開する取組を進めております。本市におきましても国の考え方を参考とし、地域の実情に沿った学校部活動の地域展開の方向性を検討していくためアンケート調査を行います。」という趣旨のお願いの文書を一緒に出すこととしている。

委員 指導者人材バンクについてだが、以前、芸術文化協会に人材バンクに登録する人の照会があり、各地域に登録依頼の文書を送付したが、また新たに行うのかを確認したい。

事務局 以前照会し、各団体から登録いただいていたところだが、状況も変わっているので、改めて登録いただければと思う。

委員 先ほど、アンケートの内容について、口頭で説明があったが、このアンケートは、計画を作るためなのか、それとも来年度から取り組もうとしている補助制度のためのアンケートなのかを確認したい。

それから、現段階で児童生徒に対しての質問が細かすぎるのではな

いかという感じを受けた。小学5・6年生、中学1・2年生の全児童生徒を対象とするという説明だが、今回は地域クラブ活動へ展開していくことであって、全員がクラブ活動に参加することを奨励していくわけではないと思う。全生徒にアンケートを実施した時に、活動に参加しない、興味がないという子ども達からもらった意見はどこに反映できるのかということを感じた。口頭の説明では、設問の趣旨がはっきりしなかったので、ペーパーでいただきたいと思う。

それから、保護者の方に、会費の設問があったと思うが、現在は中学校の部活動の一環として、活動費が入っていると思うが、そういうものをどのように整理していくのか。国では低廉な会費と言っているが、活動団体への補助をどのように考えていくのかをきちんとやっていかないと、指導者や活動する方が、ボランティアで行うわけではないので、そういうところをきちんと確認するアンケートを行えばいいのではないかと思う。

事務局 アンケートの目的は、認定制度も補助制度も推進計画とセットで考えているので、実際に子ども達の活動の状況や、子ども達や保護者の考えを把握した上で、推進計画を策定していくべきであると考え。部活動は任意加入制となり、必ずしも教育課程ではなく、学校長の判断で行っているものである。学校外の活動とすれば、いろいろな選択肢があっていいと思う。子ども達が自分のやりたいことを行う。その中の選択肢の一つが部活動や新しい地域クラブ活動となると思う。

子ども達が部活動や文化芸術スポーツ活動に対して、どういった考えを持っているのか。我々とすれば、できれば部活動というよりは、文化芸術スポーツ活動を楽しみながら生涯にわたって推進していく組織であるので、それを奨励していききたいと思うが、そういった意味でも実際子ども達がどういう認識を持って過ごしているのかを把握するため、アンケート調査を行いたいと考えている。

例えば文化芸術活動をやってみたいと思っているのか、学校部活動以外ならやりたくないとか、やってみたい場合はどういう指導者に教わりたいかなど、活動日や活動範囲などを事前にリサーチをしたいと

いうところである。それを実効性のある推進計画に反映できればと考えている。アンケート内容が細かいと指摘があったが、答えたくない質問は答えなくてよいこととしているので、できるだけ子ども達が思っている自分の考えに近いものをくみ取って分析をしたいと考えている。

部活動は、これまでは学校経費で保護者の負担はほぼなく、学校外においても指導者の方はボランティアで行っていることが多々あった。今後は学校部活動以外であれば、受益者負担ということで、保護者に負担いただくことになるので、やはり指導する方には、きちんとした対価を払っていくというように考えている。国はなるべく低廉な会費で持続可能な運営を求めている。ただ、実際学校外で活動するには多額の経費がかかることになるので、国は当面補助金を交付することによって、まずはそういった枠組みを作ることになっている。市としても国の補助を使い、認定地域クラブ活動の団体には、基準に基づいた財政支援を行って、持続可能な受益者負担で賄えるクラブ活動を支援していきたいと考えている。

委員 アンケート内容についてだが、部活動が任意加入になり、一関市は令和5年度からなので今年4年目を迎えるわけだが、その中で取組が進んできた地域部活動の制度についてもアンケートが必要ではないかと思う。検討いただければと思う。

市の制度として進めてきた地域部活動について、子ども達が実際にやってみて、どのような感想を持っているのか。また保護者の方が実際に運営の立場になって、どのような感想を持っているのかということと併せて聞いた方がよいのではないかと思う。

委員 私は子どもがいて、令和5年度に中学校に入学したが、学校部活動から切り替わるという話を入学した後に聞いた。保護者視点からの話にはなるが、どこに行くにも親の送迎が必須となると、親の負担が大きくなると感じた。今年入った1年生の子ども達は、18人中5人は部活動に所属していない子ども達で、そういった現状も踏まえて、切り替え時期にこういった負担があったのか、経済的負担もあると思うが、保護者が一

番不安に思っていることは、部活動に入部したらどのくらい負担がかかるのかということである。入学した時の道具代といったものに補助金が交付されるのであれば、部活動をやらせてもいいという保護者が増えるのではないかと。子どもの体力向上にとってもいいことなので、やらせてあげたいと思う親が増えるのではないかと。思う。

アンケートの内容としては、補助がどのくらいあるのかということが気になると思う。小学5・6年生のお子さんに聞いても、中学校に入学してから先輩の姿を見て、やりたいと思う子どもが多いと思う。進学したら何をやりたいかを聞いてもわからないのではないかなと思う。そういったところでアンケートの内容は、保護者からのやらせてあげたいなという思いが膨らむような、そういったアンケートを取り、反映していただけるものを期待している。

委員 アンケートについて、小学生の意見を、この調査で引き出したいと思う。間違いなくこれから始まる地域クラブ活動で主体となるのは、今の小学生である。小学生は部活動に入ったことがなく、部活動自体がわからない。ましてや地域クラブ活動についてもわからない。その形が変わっていった時に、イメージがどのくらい持てるのか。先ほど文部科学省の説明があったが、文字とともに子ども用のチラシなどが出ているのかわからないが、そういったイメージ図があって、初めて小学生はわかってくるのかなと思う。少子化というほかに、なおかつやる子がいらないということも考えられるので、このアンケートは非常に大事なのではないのかと思う。小学生に正しい認知をしてもらい、小学生の意見が反映されるべきだと思う。

委員 資料2の運営費に対する補助で、地域部活動の中の休日型、全日型というところの上限5万円、10万円の補助金についてだが、いつ補助金が交付されるのか。どのような申請が必要なのか。上限となっているので、審査があり金額が変わるのかを教えてください。

事務局 補助金に関しては、例年だと5月から6月にかけて、各団体から申請をいただき、区分や部員の数、代表者を登録していただいて、その後認定にふさわしい団体かどうか、指導者が適正かどうかも含めて認

定をする。その後夏過ぎに、認定が決定した地域部活動に補助金を交付するということになる。

全日型は上限が10万円だが、部員数によっては10万円の満額ではない団体もある。

委員 私の娘達は、学校部活動でお世話になったが、末っ子が今年中学1年生になり、私はこの会議に出ていたので、なんとなくこの流れだったり、説明がわかったのだが、同級生の親達の話では、バレーボール部に入ろうと思ったが廃部になってしまったので、学校へ、昨年度の保護者会の時に何とか部活を復活させたいとお願いしたが、学校では廃部が決まったので、それはできないと言われた。一年間は学校の道具や場所、ユニフォームを貸出しするので、保護者の方々に運営してくださいと言われた。指導者も登録していなかったのも、今までは学校の先生がついていたため、中学校総合体育大会に出場できていたが、それができなくなった。一年間は保護者の方々の指導のもと、特設という形でバレーボール部を作った。私もこの話を聞いて、特設というが、どこに分類されるのかがわからず、代表者に聞いたが、お子さんが第一子だと現状がわからない。中学校にバレーボール部がないことを知らなかったが、やる気はあり、人数も集まっていたので、廃部になったと言われると、どうしたらいいのかとなってしまう。また、保険に入っているのかを聞いてみたが、学校の部活動なので入っていないと言っているが、学校に聞いてみると学校の部活動ではないという、行き違いがあったりしている。この紙（資料2）で見せられても意味がわからないので、部活動と何が違うのかや、費用負担や保険などについて、直接説明を聞いたり、わかりやすい資料がないと、戸惑ってしまう。先ほどからのアンケートの話も小学5・6年生や保護者へ聞いても、イメージがわからなく答えようがないと思う。学校の先生から、保護者懇談会などの時にきちんとした説明をいただくことは大事だなと思った。集う場所と道具やユニフォームがないと、結局お金がかかってしまう。学校部活動は、あまりお金がかからず、それこそ月に1,000円や年間10,000円くらいで成り立つが、地域クラブ活動

に移行した時に、ユニフォームや道具の購入費などにお金がかかるので、月1,000円では足りないと思う。新しい補助制度をなるべく早く創設してスムーズに進めていただきたいと思う。

委員 パワハラやいじめ、暴力について確認した上で、認定するということだが、全国的にニュースを見ても起こっているので、保護者が学校に言うだけでは難しい部分もあると思う。第三者の立場から話を聞いてくれる場所を作れば、抑止力になるのではないかと思う。

委員 資料1の(3)の地域展開のイメージについて、令和13年度までというところで、学校部活動と地域部活動が残る形になっているが、市としては無くさないで残していくということか。

事務局 一番は子ども達のために移行を進めたいということで、地域部活動も、学校部活動の良さを継承しながら、段階的に地域へ広めていくというイメージで地域部活動という制度があったが、やはり一定数移行できない部活動が出てくるのではないかと思い、ゼロにはできないのでこの図には残している。

委員 現在は、学校単位での部活動が成立しづらくなっている現状がある。中学校総合体育大会の参加についても合同チームも出てきていて、資料2でいう単独での学校部活動ではなく、合同部活動であったり、拠点校ということもあるが、そういったものについて、どこで整理するのか。学校からの要望で認められるのか、市の主導で進めるのか教えていただきたい。

事務局 合同部活動や拠点校の扱いについて、誰がどういった形で主導していくのかという質問だが、現時点では、例えば、バレーボール部が元々存在していたが、一つの学校でチームができないような現状があった時に、それは合同にするか、拠点校にするかというのは、学校から話があり、教育委員会と相談したり、学校間ですり合わせができるのかというのは、現場から相談を受けて進めていくという状況である。先ほど委員から発言があった、なかったものを新たに作るというものとは少し違うが、あるものを存続させるために合同にする、あるいは拠点校にするというのと、いったんなくなったものを新たにまた

作るという時は、保護者でまずやってみないかという流れになるのは、今も同じ状況である。学校でそれぞれ違っているので、まずは合同にするか拠点校にするかというのは相談いただいて、先生が従事できるかどうかや活動場所についても実際生徒が活動できるのかということなど様々な課題もあるので、一概には言えないが、まずは教育委員会に相談いただきたい。

委員 拠点校や合同部活動というのは、中学校体育連盟主催大会の中で、地域部活動というのは市独自の取組になるので、それ以外の地域の学校が、自治体の判断を受けながら活動できる体制ということになる。拠点校や合同部活動というのは、学校部活動から少しステップアップした状態になるので、学校からすればハードルはそれほど高くないが、地域部活動というと保護者の方に運営等をお願いしていくことになり、ハードルが少し高いので学校も困っているところがある。いずれ合同部活動、拠点校部活動、地域部活動の関わりで、上手く移行できない部分があるのかもしれないが、まずは相談をしてという流れになっている。

事務局 合同部活動、拠点校部活動というのは、よくわからないところが多いと思う。中学校体育連盟主催の大会に出場するために、こういう形であれば出場できるという体制がある。

委員 とても複雑だと思うが、中学生の保護者が、こういったチームがあって、こういったジャンルのものがあるのかをもう少し見えるようにしていただいてから、中学校に入学するという形の方が、保護者の方々もイメージが付きやすくなるのかなと思う。今は過渡期で変わっている団体があり、その年その年で団体が違うので、入学前に説明会という形でもいいので、中学生になる子どもの保護者の方々が安心できるような説明があったらいいのかなと思う。

委員 他地域だったり、在校生の中で、どのくらい学校部活動に入っている子どもがいるのかもわからないが、外にはどういうチームがあり活動しているのかも、比較ができない状況で入っているなので、短い期間で見学をして、その中で決めなければならないので、あらかじめ情報があれば見学に行ったりもできたのかなと思う。

委員 中学校体育連盟と地域クラブ活動の位置付けがしっかりとわかるようなアンケートにしておかないと、スポーツをしたくて話をしているのか、競技としてみんなと取り組みたいというところがあるのかをきちんと分けないと保護者の方が一番混乱するのではないかと思います。アンケートの仕方としてももう少しわかりやすく、区別して行った方がいいのかと思う。

市でどのように進めていくのか。知り合いに今年度の中学校総合体育大会までは活動するが、その後の活動をどうしていくのか形が見えていないということを聞いた。保護者の方々がどうしたいかというところが必要である。今の過渡期だからこそきちんと分けてやっておかないと、市が目指す地域クラブ活動という部活動の地域展開が、おかしな方向になってしまうのではないかと感じるので、アンケートには気を付けた方がいいと思う。

(2) その他

委員 現在の地域部活動の休日型・全日型の活動状況について、教えてください。今後検討していく上で、共有していく必要があると思う。

それから指導者のことだが、次の協議会の予定が10月だが、国の指針では、指導者に教師等も活用できるようにとのことだが、昨年度の話では、企業の協力も求めていくということがあった。今の指導者はほとんどボランティアでお願いしているので、ボランティアでどこまで続けられるのかということもあり、地域であったり会社であったり市役所の方々をどのように巻き込んでいくのかという考え方が必要となってくると思うので、しっかり整理していただきたいと思う。

先般、修紅高等学校とアインズスポーツプロジェクトが連携協定を結んだが、地域クラブ活動においては競争を目的とするものは除くとしているが、こういう各種団体の協力をいただかないと指導者が不足してくるのではないかと思います。連携かどうかはわからないが、各クラブ活動であったり、民間のスポーツジムもできているので、そういう方々の力を借りることも、地域クラブ活動を展開していくには必要なのではない

かと思う。スポーツ協会では、スポーツ少年団の指導者はある程度押さえているが、一関市に指導者と言われる方がどれくらいいるのかわからないが、こういう方の協力を得ながら、指導者を確保していけたらと思う。

事務局 令和8年度の調査は現在行っており、6月12日まで申請を受付しているのですが、数字は令和7年度のものとなるが、休日型で55団体、全日型が7団体である。多くがスポーツだが、吹奏楽が全日型で4団体あり、令和7年度に申請している。

指導者についても、数が多いわけではないが、地域の方に謝礼を支払って引き受けていただいているケースや休日型の場合は、学校部活動としているので、教員が顧問として指導することができ、競技の経験はないが平日の学校部活動で指導するというのが実態である。

12 担当課 まちづくり推進部スポーツ振興課